

臨床整形超音波学

笹原 潤, 宮武和馬(編)

奈良医科大学教授・整形外科学

田中康仁

全ての運動器医療にかかわる方にお勧め

全ての運動器医療にかかわる方々に、本書をお勧めいたします。

超音波画像構築技術の進歩やリニアプローブの開発により、整形外科診療にパラダイムシフトが起こり、今や超音波は日常診療に必須のものとなりました。操作が簡単になり、誰でも手軽に目的とするものが描出できるようになったことで、裾野はますます広がっています。しかし、中にはまだ、超音波の有用性を感じながら、ご自身で超音波プローブを触ったことがないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。本書ではそのような方にもわかりやすいように第1章では「はじめの1歩—まずはのぞいてみよう」ということで、超音波画像の基本的なプローブの操作の仕方や描出方法など、全身の各部位について、誰でもわかるようにやさしく記載されています。

もちろんこれは序章で、次に一般的な整形外科疾患について掘り下げられ、超音波をある程度診療に活用されている方にとっても、日頃疑問に思われている事柄について、丁寧に解説されています。

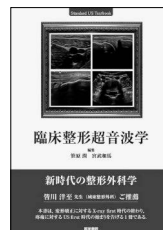
第3章までは一般的な超音波診療に関する事項ですが、第4章ではブラックボックスであった患者の痛み^{はとばし}に末梢神経からアプローチし、「患者を痛いまま帰さない」臨床をめざして、超音波を使いこんでいる方にも新鮮な事項がたくさん登場してきて、まだわれわれがみたことがない新しい世界がみえるのではないかと期待感を抱かせます。最後には理学療法士とタッグを組み、新たな整形外科診療の可能性についても言及されています。

皆さま SMAP というメンバーをご存じでしょうか。歌手の SMAP ではなく Sonography for MSK Activating Project の略で、運動器に興味を持つ

て超音波診療の進化と深化に取り組んでいる若手医師グループです。本書の執筆陣のほとんどが SMAP のメンバーであり、まさに現在進行形で発展している運動器超音波^{はとばし}をけん引している集団です。彼らの勢い、^{はとばし}進めるエネルギーを本書から感じ取ってください。

皆さまご存知のように整形外科診療の90%は保存治療であります。患者が病院や医院を訪れる主訴は「しんどい」か「痛い」かが多くを占めるのではないのでしょうか。「痛い」という主訴の多くは整形外科的疾患で、その原因となる病態を提示し、治療介入することが求められています。言い換えれば、整形外科医はプライマリケア医としての役割が大きく、間口を広くして、運動器に関することは全て対応する必要があるのではないかと常々考えております。

ぜひ皆様も本書をご熟読いただき、日常診療にお役立てください。



●B5/頁 392/2022 年
定価：7,920 円
(本体 7,200 円 + 税 10%)
[ISBN978-4-260-04691-6]
医学書院 刊